

《第 497 回(2022 年 12 月 8 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

## 『メリークリスマス 世界の子どものクリスマス』 R.B.ウィルソン/文, 市川 里美/画, さくま ゆみこ/訳 BL出版

12 月の読書会では、世界 18 か国のクリスマスの風習や文化を紹介した絵本を読みました。キリスト誕生のお話や讃美歌の楽譜、クリスマスのお菓子のレシピなども、可愛い絵とともに紹介されています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●思った以上に内容が盛りだくさんな絵本だった。文章は長いが、絵でよく説明されていて分かりやすい。サンタの絵やクリスマスパーティーを楽しむ子どもたちの絵も可愛い。サンタが登場しない国もあることは驚きだった。1 日 1 章ずつ読んであげたり、文化の比較をしたりして楽しめる、クリスマスの知識本。

●冒頭でクリスマスの始まりが説明されていて、それがこの絵本のベースになっている。クリスマスに関連したその土地の昔話が、分かりやすくまとめられている。日本は、歴史の中で外国文化を取り入れてきたけれど、クリスマスに関しても同じだなと思った。子どもが手に取って楽しめる絵本だと思う。

●本来の意味を考えずに今までクリスマスを過ごしてきたが、この本を読んで「そういうことだったのか」と思った。絵本で紹介されていた讃美歌やクリスマス飾りを、YouTube で聴いたり、実際に作ってみたりして楽しんだ。日本におけるクリスマス文化の紹介については、絵本に書いてあるとおりで思った。

●絵が可愛くて楽しめた。最初にキリスト誕生の説明があり、それを踏まえて各国の風習を読むと、色々な発見があった。ヒイラギやピートのこと等は初めて知った。讃美歌やお菓子のレシピも載っていることで、この 1 冊で色々なことが分かる。最後のページの文章に共感。クリスマスの日に世界中の人が幸せでいられたらいいな。

●様々な国の風習や文化を紹介していて、勉強になったし面白かった。キリスト誕生だけでなく、讃美歌やクリスマス飾りの作り方等も知ることができ、お得な本。日本はドイツとアメリカの風習から強く影響を受けていると思っていたが、ニッセ(ノルウェー)やピニャータ(メキシコ)等、他の国の風習も取り入れているということが分かった。

●絵が華やか。冬場に、クリスマスのような楽しいお祝い事があるのはいいな。クリスマスのような宗教行事を体験する機会があると、キリスト教の理解に繋がると思う。読んでいて、自分のこども時代のクリスマスや、今までに読んだクリスマスの本を思い出した。インドではバナナの木で飾りつけしているということには驚いた。

●キリスト教系の幼稚園に通っていたので、幼少期からクリスマスはしっかりお祝いしていた。今もアドベントカレンダーやアドベントキャンドルを家で楽しんでいる。この絵本では色々な国の文化や讃美歌を知ることができた。「こんな讃美歌も幼稚園で歌ってたかな」と思い出しながら読んだ。

●読んでいて、児童クラブに勤めていた時にクリスマス会の劇をしていたことを思い出した。行事などを通して、1年に一度でもキリスト教に接する機会があつてよかった。キリスト誕生の状況や登場人物の会話がリアルに書かれていて、いい文章だなと思った。助け合いの原点はキリスト教にあると思う。

●これまでに読んだことのないタイプのクリスマス本だった。知らなかったことがいっぱい、読んでいて楽しかった。1月6日までプレゼントを待たなければならない国もあり、待ち遠しいだろうな。今年はウクライナ情勢に胸を痛めた 1 年だったため、クリスマスは世界の平和を祈る日にしようとも思った。

次回 1 月 12 日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

☐『コーヒーを飲んで学校を建てよう キリマンジャロ・フェアトレードの村をたずねる』

ふしはら のじこ/文・絵, 辻村 英之/監修 実生社

※申込み・参加費は不要です。